

公益財団法人日本バレーボール協会 2014 年度定時評議員会議概要

1 日 時：2014 年 6 月 24 日(火) 13：00～14：35

2 会 場：東京体育館第 2 会議室

3 出席者：

評議員総数 20 名

出席評議員 18 名

梅野 實、遠藤俊郎、河合信行、河本信正、迫田義人、嶋岡健治、清水雅彦、
立木正夫、田村悦智子、中島茂、成田明彦、西川友之、萩原秀雄、不老浩二、
村井恒夫、柳橋 武、山田道人、山根武

監事総数 3 名

出席監事 3 名

大西浩志、高橋治憲、廣紀江

理事総数 15 名

出席理事 6 名

羽牟裕一郎、岩満一臣、小島和行、下山隆志、西脇克治、竹内浩

4 議 長：成田明彦評議員

5 決議事項

(1) 第 4 期計算書類等承認の件

6 議事の経過の要領及びその結果

議長が開会を宣し、本評議員会は、定款 24 条の規程にさだめる定足数を満たしており、適法に成立した旨を告げた。続いて議事録記名押印評議員に遠藤評議員、不老評議員を選出した。議事開始前に代表理事より、評議員会運営規程に基づく会議進行補助のための事務局員の同席、及び代表理事又は担当理事に代わる事務局員による案件説明実施について議長の許可を受けたいとの発言があり、議長は事務局員の同席と発言を許可した。

(1) 第 4 期計算書類承認の件

第 4 期（2014 年 3 月期）決算について以下の説明がなされ、賛否を諮りこれを承認可決した。

当期の収入は、事業収入が、1,773,193 千円、その内容は協賛金収入 846,348 千円、入場料収入 483,395 千円、業務受託料 37,347 千円などが主なものである。これらに受取メンバー制度登録料 189,437 千円、補助金等 112,674 千円、受取交付金 19,079 千円等を加えると、

当期収入合計は2,120,162千円となる。

この結果、税引前当期一般正味財産減少額は9,021千円となり、これに法人税等70千円を計上した当期一般正味財産減少額は9,091千円となった。

【監査報告】

続いて、下記のように監査報告が行われた。

公益財団法人日本バレーボール協会の第4期（2013年4月1日～2014年3月31日）の下記の計算書類について監査したところ、適正かつ公正に処理されており、その内容が事実であることを認める。

- (1) 貸借対照表及び正味財産増減計算書、並びにこれらの付属明細書
- (2) 財産目録

また、理事の業務執行状況について監査したところ、定款第31条の職務を遂行していることを認める。

7 報告事項

(1) 第4期（2013年度）事業報告について

本会は2011年2月に公益財団法人に移行し、第1期が2月～3月の2ヵ月間、第2期は2011年4月～2012年3月、第3期は2012年4月～2013年3月、第4期は2013年4月～2014年3月となる。

当期は6月に理事の改選があり、15名（定数：15名～20名）が選任された。そして新理事会により羽牟代表理事・会長が選任され、業務執行理事についても変更があり、その後、各本部長ならびに委員会委員が選任された。

2013年11月に開催した各大陸のチャンピオンが戦う、ワールドグランドチャンピオンズカップでは、全日本女子チームがロンドンオリンピックに続き銅メダルを獲得した。更に、次世代を担う若い選手達も、6月にチェコで開催された第17回世界ジュニア女子選手権大会（U-20）において第3回大会以来の銀メダルを獲得、7月にロシアで開催された第27回ユニバーシアード競技大会では男子チームが銅メダルを獲得、10月にメキシコで開催された第1回世界U-23女子大会において銅メダルを獲得するなど、目覚ましい成果を挙げ、日本国民に夢や勇気、感動をお届けすることができた。

オリンピック終了後、2016年のリオデジャネイロオリンピックに向けて、強化体制の再構築を図ることとなり、強化事業本部長の下、新体制を構築し活動を開始し、眞鍋監督が率いる全日本女子代表チームは次年度イタリアにて開催される世界選手権の出場権を獲得したが、ゲーリー・サトウ監督が率いた全日本男子代表チームは世界選手権の出場権を

獲得することが出来なかった。その後、ワールドグランドチャンピオンズカップ等の成績を強化委員会にて慎重審議し、ゲーリー・サトウ監督については、解任を決定した。後任の監督には、強化事業本部の審議に基づく推薦者、あるいは公募による選出をする事となり、理事会にて承認の上、天皇杯やV・プレミアリーグ等で優勝経験のある、パナソニック パンサーズの南部正司監督を迎える事となった。

強化事業本部の組織改正に合わせ、男女それぞれの強化担当ゼネラルマネジャーを配置し、新たに選手発掘から育成までの一貫した強化体制を構築するため、発掘育成委員会を設置した。

また、体罰・暴力の相談窓口を昨年5月15日に開設し、3月末までに70件弱の相談を受け、内容に応じて随時対応をした。

当期決算については、当初予算は34百万円の赤字を見込んでいたが、本会、関係団体、関係者の皆様のご協力を得ながら財政改善に取り組んだ結果、赤字を9百万円まで圧縮し、当初予算より25百万円の改善となった。

当期は引き続き赤字決算となったが、前期の赤字40百万円からは31百万円改善することが出来た。

以上をもって、議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長は14:35分に閉会を宣した。